

# まねきねこ

2006年 初夏・第8号

ヘルスケア関連団体のネットワークづくりを支援する情報誌



人とのつながりを大切に

## まねきねこ

いぬとねこ



「まねきねこ」読者の皆様こんにちは。2月20日にソールン・セリンダーに代わり、ファイザー・ヘルスリサーチ振興財団理事長より代表取締役社長に就任いたしました岩崎です。昨年2月まで専務取締役として経営企画部門を統轄しておりましたが、このたび社長といたしました皆様にも再びお会いできることを光栄に思います。

私は、専務在任中にヘルスケア関連団体支援活動、ファイザープログラム、社員のボランティア活動支援などの社会貢献活動を立ち上げさせました。それぞれの活動が年々充実したものになってきていることを喜ばしく思いますとともに、皆様のご協力に対して心より感謝申し上げます。

その中でも、ヘルスケア関連団体支援活動を立ち上げさせましたのは、日本におけるより良い医療実現の原動力となるのはまさしくヘルスケア関連団体の方々であり、その活動を支援することで、ファイザーもより良い医療実現に向けて貢献できると考えたからです。そのためにも、団体間のネットワーク作りを基に様々な情報を共有化されることが不可欠と考えております。

担当者より、「ワークシヨップ」や「地域学習会」をベースに情報の共有化が進み、様々なプログラムが実施されているとの報告を受けております。ネットワークをより充実したものにするために、今後も継続性をもった支援を実施していく所存です。

皆様より多くのご意見をいただきながら、日本におけるより良い医療の実現に向けて努力してまいります。今後ともよろしくお願いたします。

ファイザー株式会社

代表取締役社長 岩崎 博充

# ヘルスケア関連団体・冬の活動報告

厳しい寒さや豪雪に見舞われたこの冬も、各地でヘルスケア関連団体のユニークな活動が展開されました。ネットワークが広がることによって、活動の具体性や社会性が高まります。今回は、そんな活動の中から、関西地域学習会、阪神大震災をきっかけに生まれた日本IDDMMネットワーク創立10周年記念フォーラム、東北ヘルスケアネットワーク学習会の模様をご紹介します。

## 第7回ヘルスケア関連団体ネットワークキングの会 関西地域学習会 in 兵庫(1月28日) 患者会のよりよい運営方法の知恵を出し合う

尼崎市総合文化センターにて9団体13人の参加で開催されました。はじめに会の運営方法などの情報交換のプログラムを設定。同じ疾患を持つ患者会でありながら、病状や生活環境などそれぞれ違う立場の会員同士がどうコミュニケーションを取るかについて話し合われました。運営方針のズレや事務局をとめる人間の時間的・精神的負担などの悩みに対して、代表を置かず複数で活動する、仕事を抱えずに悩みをわかちあえる機会をつくる、ときには会を縮小する勇氣も必要などの意見や知恵が出されました。続いて「医学教育に患者の声を組み込む」ことをテーマに第2回目から継続的に実施している模擬発表へ。今回は腎性尿崩症友の会の神野啓子さんが「小児慢性疾患である腎性尿崩症の見地から」と題して45分の講演を行いました。遺伝疾患である病気の概要から生活上の問題点、患者会の必要性など自身の体験を組み込みながら発表。内容の検討後、今後この模擬発表では話す対象を医学部か看護学校か、学生の年次まで明確に絞り込んで内容をつくることを決定しました。懇親会では関西学習会のホームページ立ち上げについても話し合われました。



## 日本IDDMMネットワーク創立10周年 「1型糖尿病を考える全国フォーラム」in 東京(1月28、29日) 患者と家族の未来に向けて、安心して暮らせる環境をめざす

日本IDDMMネットワークの創立10周年を記念して「1型糖尿病を考える全国フォーラム」は患者と家族の未来に向けた多様な選択肢が開催されました。1月28日は明治大学アカデミーホールにおいて、川村智行医師(大阪市立大学大学院発達小児医学教室)による「1型糖尿病の最新インスリン療法について」ポンプ療法を中心に、松本慎二医師(京都大学医学部附属病院隣島移植チームリーダー)による「隣島移植 1型糖尿病根治へのロードマップ」という最新の医学講演と、「セルフマネジメント(自己管理)」の紹介が行われました。また病気を克服して活躍するエアロビックユース世界チャンピオン大村詠さんや歌手HANZOさんが登場したり、阪神タイガースに入団した岩田稔選手ビデオ・メッセージ、地球博プロデューサーを務めたジョン・ギャスライトさんによる親の立場からの講演など、バラエティ豊かなフォーラムとなりました。

1月29日は、家の光会館・飯田橋レインボーホールに場所を移して、分科会が開かれ、「医療者とのより良いコミュニケーション」や「カーボカウント」「学校関係者と家族のための1型糖尿病教室」「災害時の行動指針と支援」という4つのテーマに基づいて議論が行われました。

1型糖尿病は、稀少な病気であるため、一般社会ではもちろん、医療現場でさえ、病気が正しく認知されておらず、患者さんや家族が社会生活において心無い差別を受けたり、適切な療養指導が受けられなかったりする現状があります。

今回のフォーラムは、こうした課題を克服するため、1型糖尿病に関する最先端の医療情報、自己管理の支援ツール等の多様な選択肢や当事者の体験談を提供し、安心して生活できる環境づくりを考えると同時に、広く一般の人々にこの病気と患者を取り巻く環境を理解してもらうことを目的に開催されたものです。



各団体の現状と課題を学び合い、  
今後の具体的な活動を考える



2月5日第5回東北地区の「東北ヘルスケアネット学習会」が開かれました。

これまでの学習会において、それぞれの所属する患者団体・障害者団体の種別を超えた共通課題について話し合っていました。第5回を迎えた今回は、日常生活・社会生活に関する課題、医療関連に関する課題について、数人が発表を行い、意見交換がなされたあと、ホームページの進行状況や今後の会の在り方について具体的な話し合いが行われました。

厳しい自然環境などの条件をかかえる東北で、ヘルスケア関連団体がネットワークづくりを進めることによって、何ができるのか、どのように東北の地域社会を変えていくことができるのか、初めて参加したメンバーも交えて活発な議論が交わされました。また、東北ヘルスケアネットが、具体的に活動を行うべく、うえでの役割分担や事務局体制などについても話し合いが行われました。

※東北ヘルスケアネットのホームページがアップしました。  
<http://www.tohoku-hcn.org/>



CONTENTS

まねきねこ 2006初夏 第8号・目次

|      |   |
|------|---|
| 1-2  | 活動レポート第7回(2006)<br>ヘルスケア関連団体活動報告  |
| 3-4  | クローズアップ第8回<br>社団法人 <b>やどかりの会</b><br>常務理事 やどかり情報館 館長 増田 一世   |
| 5-6  | マネコとキネコの <b>VHO-net</b> ウォッチング<br>医療のひろば 用語解説<br>「平成18年度診療報酬改定」<br><b>VHO-net</b> ヘルスケア関連団体ネットワーク |
| 7-8  | <b>元気の茶</b> リレーエッセイ 第8回<br>アースライティス・ファウンデーション<br>(アメリカ関節炎基金)<br>タズコ・ファーガソン                        |
| 9-10 | <b>知恵の茶</b> HOW TO 第8回<br>会の運営に役立つハウツー集<br>信頼性を高め、ネットワークを広げる活動ノウハウ<br>NPO法人 MSキャンピン<br>理事長 中田 郷子  |
|      | <b>EVENT CALENDAR</b><br>マネコとキネコの 情報ひろば   |

参加団体名



- あげばの会宮城支部
- あすなろ会
- 心のネットワーク みやぎ
- CILたすけっと
- 障害者差別をなくす条例を考えるみやぎ連絡協議会
- 全国低肺機能者グループ 東北白鳥会
- 全国肢体不自由児者父母の会連合会
- 仙台市障害者スポーツ協会
- 仙台市障害者社会参加推進センター
- 財団法人 仙台市身体障害者福祉協会
- 仙台市障害者更正相談所
- 仙台市身体障害者福祉会
- 仙台市視覚障害者福祉会
- 仙台ポリオの会
- NPO法人 地域生活オウエン団せんだい
- 中途視覚障害者の復職を考える会 タートルの会
- 東北福祉大学
- 日本オストミー協会
- 日本筋ジストロフィー協会
- 社団法人 日本てんかん協会
- 社団法人 日本リウマチ友の会
- ピンクのリボン
- 福島県腎臓病患者連絡協議会
- 社会福祉法人ふれあいの森 向日葵ファミリー
- 宮城県肝臓病交友会
- 宮城県喉頭摘出者福祉協会
- 宮城県腎臓病患者連絡協議会
- 宮城県脊髄損傷者協会
- 社会福祉法人公和会
- ハート

社団法人

## やどかりの里

常務理事

やどかり情報館館長 増田 一世

「やどかりの里」は、さいたま市を拠点として、精神障がい（主に慢性の統合失調症）のある人たちが、地域で安心して暮らしていくための支援活動を行っている団体です。1970年の設立以来、精神障がい者支援の草分け的な存在として、社会復帰施設や地域生活支援センターを開設するとともに、出版や研修、研究事業などを通して、精神障がい者の福祉の向上と地域での精神保健福祉の推進と普及をめざしています。



## 活動の状況

## 活動のスタートは、退院後の生活支援から

統合失調症は、以前は精神分裂症と言われていた精神障がい、原因などが未だはつきりせず、根本的な治療法が確立されていません。思春期に発病する人が多く、慢性的な傾向をたどる場合があり、多くの患者さんは疲れやすさ、統合力の弱さ、人間関係における過度の緊張といった生きづらさをもちます。また、稀に当事者が関係した事件などの話題が先行するため、社会的な偏見が強く、いったん病気になる

と就職や結婚などに大きな障がいとなることも多いのが現状です。日本では精神障がい者への福祉的施策の遅れにより、長期入院をせざるをえない人も多く、病気の治療が終わっても地域に帰る場がないために入院を継続する社会的入院者が7万2千人いると言われています。こうした患者さんの退院後の生活を支援するために、1970（昭和45）年、埼玉県大宮市（現さいたま市）大宮厚生病院の精神医療ソーシャルワーカーであった谷中輝雄氏を中心に設立されたのが「やどかりの里」で、当初は住まいの確保や職場の開拓が主な活動でした。その後の20年間は、公的な補助金事業のない中で常に財政危機を抱えた状態が続きましたが、地域で協力者や理解者を

得て、「やどかりの里」を支援するネットワークに助けられながら、活動してきました。

1987年の精神保健法の改正により、地域で精神障がい者を支援する活動や、社会復帰施設が認められて、国と県の補助金が得られるようになりました。そこで1990年に社会復帰施設を建設し、さらにその後地域生活支援センターや作業所、グループホームを開設するなど、活動の場が広がっていきました。

## 高齢化対応や、就労への取り組みが今後の課題

現在では、「やどかりの里」はさいたま市内に「住む場、働く場、憩いの場」を点在させ、精神障がいをもつ人々と家族、職員、多くの地域の人々な

どが共に地域で安心して暮らせる社会をめざして積極的に活動を進めています。現在200名ほどの利用者が生活支援センターに登録し、グループホームに入居したり、作業所に通ったり、家族と同居しながらサークル活動に参加するなどしています。主に利用者は埼玉県在住者ですが、「やどかりの里」を利用するために転居してくる人もいるほどです。1997年4月には、福祉工場「やどかり情報館」がオープンし、23名の精神障がい者が労働者として働き、出版や研究活動も展開しています。

これからの課題としては、まず高齢化への対応があげられます。自立していた利用者が高齢化のため身体的な支援などが必要となる人が出て



◀「エンジュ」スタッフ

●通所授産施設「エンジュ」  
**「住む場、働く場、憩いの場」を  
 提供して生活を支援**

きたので、施設のバリアフリー化や職員の増員などにも必要になってくると考えられます。さらに家族同居の場合、親御さんの高齢化も問題となるので、できるだけ早く自立して暮らせるように、チャレンジハウスという一人暮らしを経験する活動に取り組んでいます。また、できれば一般企業で働きたいという人も増えてきました。企業が求める労働力と提供できる労働力の差をどう調整して、健康を守って就労を実現していくかも大きな問題です。このように解決しなければならぬことは多くありますが、1人でも多くの精神障がい者が地域の中で自分らしく暮らせるように、生活を支える活動を続けていきたいと思えます。

在宅の高齢者や障がい者への食事サービス(昼食と夕食)を行っており、精神障がい者と栄養士や、調理員などの職員が働いています。エンジュでは、無理をせず健康を維持して働くこと、衛生と安全に配慮しながら仕事に取り組みること、話し合いを基盤として活動を進めて

▼印刷



場所がほしいという声から生まれた福祉工場です。出版、印刷、研究所の

●福祉工場「やどかり情報館」  
 病気を隠さずに安心して働ける場所がほしいという声から生まれた福祉工場です。出版、印刷、研究所の

●援護寮  
 いくことを大切にし、健康的に働く場づくりをめざしています。



◀やどかり出版の出版物



3部門があり、最低賃金など労働関係法規が適用され、用件を満たす人は社会保険、厚生年金、雇用保険に加入しています。また、やどかり出版では、障がいや疾病を持つ人々の



▲「やどかり情報館」スタッフ

●地域生活支援センター  
 地域で生活している精神障がい者への支援を行うと同時に、必要な資源の開拓や調整を行っています。現在、大宮東部、大宮中部、浦和に生活支援センターを開設しています。

病を持つ人々の社会に届きづらい声を発信することを大きな使命とし、精神障がい分野を中心に、障害福祉や地域保健(公衆衛生)の分野の出版物を手がけています。

●作業所  
 10〜15人ほどの利用者が集まり、自分なりのスタンスで働くことのできる場所です。6か所の作業所があり、喫茶店の営業、やどかりのメンバーへの食事サービス、リサイクルショップ、それぞれの個性を活かした手作り品の制作など、特徴ある活動を行っています。

●グループホーム  
 1つのアパートのうち4〜5世帯をやどかりの里が契約し、住居の確保が難しい人に提供しています。入居者の中でリーダーを決め、入居者同士が支えながら暮らしています。困ったことが起きたときには、職員と共に問題解決を図っています。

●サークル活動  
 趣味の会や楽しみの会、食事づくりやパソコンなどを学ぶ会が開かれています。また、仲間づくりや一人暮らし、働くことを目的としたグループ活動も行われています。



# マネコとキネコの VHO-net ウォッチング

http://www.vho-net.org/  
医療のひろば

●無償で交付される領収証 (医科診療報酬の標準例)

また、保険医療機関等の努力義務として、患者から求められた時はさらに詳細な医療費の内容がわかる明細書の発行に努めることとなりました。明細書の発行に係る費用について、厚生労働省から各地方社会保険事務局長宛の通知には、「現時点においては、保険医療機関等、保険薬局

及び指定訪問看護事業者と患者との間の関係にゆだねられているものと解することができるが、仮に費用を徴収する場合にあっても、実費相当とするなど、社会的に妥当適切な範囲とすることが適当である」と書かれています。中医協の議論の過程では、明細書の発行までを義務化すべきだと主張する支払い側（保険者、被保険者、事業主等の代表）と医療現場での対応が困難であると主張する診療側（医師、歯科医師、薬剤師の代表）が互いに譲りませんでした。最終的には両者とも公益側（公益の代表）の出した意見に従う形となりました。



## VHO-netヘルスケア関連団体ネットワーク



VHO-net (Voluntary Healthcare Organization) は、ヘルスケア関連団体に対する理解、認識を深めていただくことを目的としたウェブサイトです。ここでは、ヘルスケア関連のさまざまな団体の紹介をはじめ、国内外の情報、講演会やワークショップの概要などを提供しています。また、ここで取り上げている用語解説は、VHO-netの医療のひろばに掲載されています。



●団体一覧



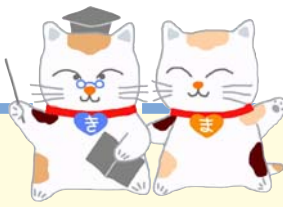
●ワークショップ



●勉強会



●医療のひろば



## 用語解説「平成18年度診療報酬改定」

### 1 診療報酬とは

保険医療機関が保険診療を行った場合や保険薬局が保険調剤を行った場合に、保険者から医療機関や薬局へ報酬として支払われる医療費のことを言います。診療報酬額は診療報酬点数表に定められている点数に基づいて算定されます。

診療報酬の制定または改定については、厚生労働大臣が中央社会保険医療協議会（中医協）に諮問し、その意見を聞いて決定することとされています。最近では2年ごとに改定が行われており、医療費の動向や医療政策、疾病構造の変化、新医療技術の導入、医療機関の収支状況などが勘案されています。

### 2 平成18年度診療報酬改定に至る経緯

平成18年度診療報酬改定に係る基本的な医療政策については、平成17年11月の社会保障審議会において「平成18年度診療報酬改定の基本方針」が出され、「国民の安心の基盤として、質の高い医療を効率的に提供する医療提供体制の構築と、将来にわたる国民皆保険制度の堅持とが不可欠である」とされました。

また、診療報酬改定に係る改定率については、平成18年度予算案の編成過程において、賃金・物価動向などの昨今の経済動向や医療経済実態調査の結果、さらに保険財政の状況等を踏まえ、医療費に対して診療報酬本体の改定で1.36%削減、薬価等の改定で1.8%削減、合計で3.16%削減することが内閣において決定されました。このような状況を受けて、平成18年1月に厚生労働大臣より中医協に対し、3.16%という改定率を前提とし、「基本方針」に沿って診療報酬点数の改定案を作成するよう諮問がなされました。

中医協では厚生労働大臣の諮問を受け、具体的な診療報酬点数の設定に係る調査・審議を行いました。その一環として平成18年1月に国民の意見（パブリックコメント）を募集しました。そこで集められた国民の声を踏まえ、中医協で議論を重ね、平成18年2月15日に厚生労働大臣に対し診療報酬改定案について答申を行いました。

### 3 平成18年度診療報酬改定についての基本的な考え方

社会保障審議会でもとめられた「基本方針」に沿って、次の4つの視点から検討が行われました。

- ①患者から見て分かりやすく、患者の生活の質（QOL）を高める医療を実現する視点
- ②質の高い医療を効率的に提供するために医療機能の分化・連携を推進する視点
- ③我が国の医療の中で今後重点的に対応していくべきと思われる領域の評価の在り方について検討する視点
- ④医療費の配分の中で効率化余地があると思われる領域の評価の在り方について検討する視点

### 4 医療費の内容の分かる領収証の交付について

平成18年度診療報酬改定において、最後まで議論がもつれた項目の一つに領収証の交付があります。基本的な考え方①の「患者から見て分かりやすく、患者の生活の質（QOL）を高める医療を実現する視点」から検討された項目で、保険医療機関等には医療費の内容の分かる領収証（初・再診料、検査、投薬など診療報酬点数表の各部単位で金額の内訳の分かるもの）を無償で交付することが義務付けられました。（但し、平成18年4月1日までに体制を整えることが困難な保険医療機関等については6ヶ月間の経過措置を設けることとされました。）





## 私の元気の源は、ポジティブな気持ちと、 よい医師との出会い、そして家族、仲間

アースライティス・ファウンデーション

(Arthritis Foundation = アメリカ関節炎基金)

タズコ・フアーガソン (Tazuko S. Ferguson)



30年前、私は「原因不明の病気」でアメリカ・マディソンの自宅で車椅子の生活を送っていました。母親として子どものために昼食を用意しなければなりませんでした。自分でフォークを持ち上げることすらできなかった私は、息子がお昼に学校から戻って、昼食の用意を手伝ってくれるのを待つことしかできない状態だったのです。発病から2年間、さまざまな病院へ行っても何の病気かはわからず、精神疾患ではないかと診断されたこともありましたが、私は何か身体的にきつと悪いところがあるはずだと感じていました。幸いながら家族が支えてくれたため、ポジティブな気持ちを失わずに過ごせました。その後、リウマチ専門医であるキャロリン・ベル医師に出会い、数回にわたる検査の後、関節リウマチと変形性関節症と診断されたのです。ベル医師は膝の手術後、薬物療法やストレッチや温水でのエクササイズ、作業療法などを含んだ併用療法の治療計画を作ってくれました。治療生活にはさまざまな困難が伴いましたが、驚いたことに併用療法を始めて数か月で、私は再び杖を持って歩けるようになったのです。めざましく回復することができたのは、常にポジティブに考えてきたこと、ベル医師と出会い、正しい診断と適切な治療を受けられたこと、そして家族の大きな協力のおかげだと信じています。

また関節炎と診断されてから、アースライティス・ファウンデーションを知り、病気についてさらに詳しい情報を得ることができ、精神面やその他のいろいろな面でサポートしてもらいました。その経験から、患者をサポートするボランティアや、病気に対する研究と医師への教育など、こうした患者団体の活動の大切さを実感し、私も、患者をサポートしたり助言したりすることをライフワークにしようと決意し、活動を始めて20年以上になります。他の人の痛みが早く解消できるようにとお手伝いするうちに、私自身がさらに元気になつてきたように感じています。アースライティス・ファウンデーションでボランティアをしていること、そこでのさまざまな仲間たちとの出会いも、私の元気の源になりました。

現在、銀行に勤めながらアースライティス・ファウンデーションのサウスウエスト地区の役員を7年間務め、ウィスコンシン・アドボケイト・ネットワークでも活動しています。サウスウエスト地区の政府関係の委員会 (the Government Affairs Subcommittee) や国際ヘルスケアアドボケイトのプログラム委員会の活動にも時間を見つけて携わっています。議会にも「関節炎の研究と医師への教育を支援して専門医を増やせば、もっと多くの人が元気になって、働くことができるようになり、納税者となって、社会に貢献できます。私自身がその証明です」と訴え、関節炎の予防や管理、団体の活動などのために多額の補助金を得ることができました。

※アドボケイトとは、疾患啓発や団体として、いろいろな要望を政府に出したり、患者さんのためにあらゆる支援を行うことを指します。





私には、痛みがあり、関節炎があります。また杖を使うときがくるかもしれない。でも、もう関節炎に支配されることはありません。今の私は、絶えず関節炎に関するリサーチや疾患啓発に努め、他の人との情報交換を行い、病気の克服に成功したという自信があるからです。そして家族や多くの友達に感謝しながら、元気に生活し、働き、毎日を楽しんでいます。病気に苦しむ仲間たちをもっと元気になることができるように、アースライティス・ファウンデーションの活動を続けていきたいと思っています。

## アースライティス・ファウンデーション (Arthritis Foundation)

アースライティス・ファウンデーションは、全米最大規模の関節炎の研究・患者支援・社会啓発を行う非営利組織です。

日本のヘルスケア関連団体に比べると、その活動はとて幅広く、資金力があり、社会に対して大きな力を持っているのが特徴です。寄付やボランティアを積極的に行うアメリカの国民性も反映しているようですが、一般市民が楽しみながら参加できるようにイベント開催にも工夫を凝らすなど、アースライティス・ファウンデーションのユニークな活動方法も、団体としての成功の理由だと考えられます。

現在は、「ジングルベル」というスポーツ大会、ワインティスティング・パーティー、ゴルフ大会、ラジオ・キャンペーンなどを開催しており、楽しいイベントによって資金を集め、それを活用して、また多くの患者さんの支援活動を展開するという、理想的な流れが実現しています。

## ジングルベル (Jingle Bell)

ジヨキングやウオーキングなどのスポーツ大会。参加者は、参加費に応じてシャツ、キャップなどのJingle Bellのキャラクターグッズ



を身につけてプログラムに出場し、スポーツを楽しむことで、気軽にアースライティス・ファウンデーションの活動に協力できる仕組みになっています。タズコ・ファーガンさんの勤務先であるアンカーバンクが、メインスポンサーになっています。

## ワインティスティング・パーティー

ワインと料理を楽しめるパーティー。地元のレストランや企業、シヨップ、弁護士などがスポンサーとなり、酒店やワイン用品のメーカーなどが商品を提供し、一般市民が有料で参加します。オークションや抽選などもあり、参加者は楽しみながらアースライティス・ファウンデーションの活動の支援をすることが出来ます。昨年は、ワイン以外にカリフォルニア産の日本酒のティスティングや、すしを用意したのがとても好評で、多くの人が参加し、多額の資金を集めることもできました。



HOW TO

第8回

会の運営に役立つハウツー集  
信頼性を高め、ネットワークを広げる  
活動ノウハウ MSキャビンの「事業報告書」および「相談業務」

NPO法人MSキャビン 理事長 中田郷子



MSキャビンは、MS(Multiple Sclerosis 多発性硬化症)の患者さんに対して、情報を提供することにより、病気を受け入れ、病気とうまくつき合っていくようにサポートする活動を行っている団体です。今回は、MSキャビンが、団体としての信頼性を高め、また読者や支援者を拡大していくために工夫している事業報告書や相談対応について、その具体的な取り組みをご紹介します。

めざすのは、団体の「顔」や努力が見える事業報告書

私は、事業報告書の目的は、MSキャビンを知らない人でも、報告書を読めば、実際の活動内容が把握できること、読んだ人が私たちのことを理解し、応援してくれることだと考えています。

MSキャビンの設立当初は会計報告だけを作成していましたが、活動報告もきちんとするべきだといふ記事を読んで共感し、

2001年から現在のようない事業報告書を作り始めました。資金として寄付をいただくわけですから、会計報告はもちろん、活動も細かく報告する義務があると思うのです。今年3000部作りましたが、全体の文章とレイアウトは自分たちで作成し、印刷と製本は業者に依頼しました。

活動報告のページも会計報告のページも、読みやすくわかりやすいものになるように毎年工夫しています。「何で」もできるだけクリアに細かく報告しよう、「事務局の業務や、団体の顔が見える報告書にしよう」と考え、日常の活動でも常に報告書のために細かく記録を残すように心がけています。

読者拡大や寄付依頼にも、事業報告書を活用

事業報告書には協力医師の一覧を掲載しているの、専門医を紹介してほしいという依頼があれば、事業報告書を

送るようになっています。MSキャビンは、会員ではなく、情報誌の定期購読者というスタイルをとっていますので、問い合わせがあれば、まず事業報告書と情報誌を送って、必要ならば「定期購読してください」と呼びかけるようにしています。事業報告書はMSキャビンの活動をすべて掲載しているので、電話相談の際などにスタッフの資料としても役立つと思います。賛助会員にも、この報告書を送り、寄付の継続をお願いします。事業報告書の作成と送付にはそれなりのコストがかかりますが、きちんとした報告書があれば、団体としての信頼性が高まり、読者や支援者が増えることを実感しているので、これは一種の投資だと考えています。現在は、来年度の事業報告書に備えて、情報誌の原稿制作や電話およびメール相談の対応などさまざまな事務局業務に、どのくらい時間がかかっているかを測っています。メールの対応に1日何時間ぐらいかかるから、何人ぐらい



スタッフがいると助かるというように報告していけば、もう少し人が集まりやすくなるのではないかと考えているのです。お金がない、人がないというのはどこの団体でも共通の課題だと思えますが、こうした詳しい報告書を作っているところがないというのかというところが読んでくれる人にもよくわかり、効果もあると思います。

## MSキャビンの事業報告書のポイント

### ■活動報告

ホームページ運営、情報誌、セミナー、講演会、ミーティング

●写真などを活用して、活動内容が読み手に見えてくるように工夫する。

●講演会やセミナーの報告は、具体的な場所や開催時期などを細かく載せて、「どこで、いつ、開催されたか、ひとめで把握できる形」にする。

ANNUAL REPORT FOR 2005, MS CABIN, A NON-PROFIT ORGANIZATION

### 報告④「セミナー・講演会の開催」

2005年1月1日～2005年12月31日までの活動実績を、2006年2月21日現在、東京事務所にて発表しました。

●セミナー・講演会 18回開催  
総計 193人参加

●講演会 1回開催  
講演者 藤田 浩二氏  
講演題目 「脳卒中と認知症」  
講演内容 脳卒中と認知症の予防法、治療法、介護方法などについて講演されました。講演終了後、質疑応答を行いました。

●セミナー・講演会 17回開催  
講演者 藤田 浩二氏、山本 浩二氏、山本 浩三氏、山本 浩四氏、山本 浩五氏、山本 浩六氏、山本 浩七氏、山本 浩八氏、山本 浩九氏、山本 浩十氏、山本 浩十一氏、山本 浩十二氏、山本 浩十三氏、山本 浩十四氏、山本 浩十五氏、山本 浩十六氏、山本 浩十七氏  
講演題目 「脳卒中と認知症」  
講演内容 脳卒中と認知症の予防法、治療法、介護方法などについて講演されました。講演終了後、質疑応答を行いました。

| 開催日時        | 開催場所  | 講演者     | 講演題目    | 参加人数 |
|-------------|-------|---------|---------|------|
| 2005年1月15日  | 東京事務所 | 藤田 浩二氏  | 脳卒中と認知症 | 15人  |
| 2005年2月15日  | 東京事務所 | 山本 浩二氏  | 脳卒中と認知症 | 15人  |
| 2005年3月15日  | 東京事務所 | 山本 浩三氏  | 脳卒中と認知症 | 15人  |
| 2005年4月15日  | 東京事務所 | 山本 浩四氏  | 脳卒中と認知症 | 15人  |
| 2005年5月15日  | 東京事務所 | 山本 浩五氏  | 脳卒中と認知症 | 15人  |
| 2005年6月15日  | 東京事務所 | 山本 浩六氏  | 脳卒中と認知症 | 15人  |
| 2005年7月15日  | 東京事務所 | 山本 浩七氏  | 脳卒中と認知症 | 15人  |
| 2005年8月15日  | 東京事務所 | 山本 浩八氏  | 脳卒中と認知症 | 15人  |
| 2005年9月15日  | 東京事務所 | 山本 浩九氏  | 脳卒中と認知症 | 15人  |
| 2005年10月15日 | 東京事務所 | 山本 浩十氏  | 脳卒中と認知症 | 15人  |
| 2005年11月15日 | 東京事務所 | 山本 浩十一氏 | 脳卒中と認知症 | 15人  |
| 2005年12月15日 | 東京事務所 | 山本 浩十二氏 | 脳卒中と認知症 | 15人  |

ANNUAL REPORT FOR 2005, MS CABIN, A NON-PROFIT ORGANIZATION

### 報告⑤「会計報告」

2005年1月1日～2005年12月31日までの活動実績を、2006年2月21日現在、東京事務所にて発表しました。

●収入内訳表

| 収入内訳  | 金額       |
|-------|----------|
| 会費収入  | 100,000円 |
| 寄付金収入 | 200,000円 |
| 雑収入   | 50,000円  |
| 合計    | 350,000円 |

●経費内訳表

| 経費内訳 | 金額       |
|------|----------|
| 役員報酬 | 100,000円 |
| 職員報酬 | 200,000円 |
| 雑費   | 50,000円  |
| 合計   | 350,000円 |

●応援しよう、という気持ちになってもらうために、報告と共に、今後の取り組みや計画、抱負なども載せておく。

### ■会計報告

収支計算書、損益計算書と貸借対照表

●会議費や通信費の中身もよくわかるようにできるだけ詳しく書く。

### ■運営体制と事務局業務の紹介

●できるだけ詳しく説明する。相談対応についても、事務局で多数の相談に答えていることを理解してもらうために、具体的な数や内容を載せる。

電話やメールでの相談業務は、ヘルス

## 団体の信頼性を高める相談業務のノウハウ

●MSの専門医は数少ないので、協力してくれた医師を一覧表で紹介。電話での問い合わせに答えやすいように地域別に表を作成。

### ■協力医師の紹介一覧

●患者さん（読者）の投稿を、承諾を得て掲載し、親近感を高める。

### ■患者さんの声

●寄付など支援してくれた団体の許可を得て紹介する。

### ■賛助会員の紹介

ANNUAL REPORT FOR 2005, MS CABIN, A NON-PROFIT ORGANIZATION

### 会計報告④「収支計算書」

2005年1月1日～2005年12月31日までの活動実績を、2006年2月21日現在、東京事務所にて発表しました。

●収入内訳表

| 収入内訳  | 金額       |
|-------|----------|
| 会費収入  | 100,000円 |
| 寄付金収入 | 200,000円 |
| 雑収入   | 50,000円  |
| 合計    | 350,000円 |

●経費内訳表

| 経費内訳 | 金額       |
|------|----------|
| 役員報酬 | 100,000円 |
| 職員報酬 | 200,000円 |
| 雑費   | 50,000円  |
| 合計   | 350,000円 |

ANNUAL REPORT FOR 2005, MS CABIN, A NON-PROFIT ORGANIZATION

### 会計報告⑤「貸借対照表」

2005年12月31日現在の活動実績を、2006年2月21日現在、東京事務所にて発表しました。

| 資産  | 負債       | 純資産      |
|-----|----------|----------|
| 現金  | 100,000円 | 100,000円 |
| 預金  | 200,000円 | 200,000円 |
| 雑資産 | 50,000円  | 50,000円  |
| 合計  | 350,000円 | 350,000円 |

ケア関連団体の事務局の主な活動のひとつです。電話相談のとき、担当者が不在でもきちんと対応できたり、どのスタッフが電話を受けても団体として統一された対応やアドバイスができるようにしておくことは、団体の信頼性を高めるためにも重要です。その一方で、スタッフ個人の負担が重くなりすぎないように配慮することも必要だと思えます。

そこで、MSキャビンでは、電話での受け答えのマニュアルを作ったり、パソコンや通信システムの便利な機能を活用するなどして、相談にもきちんと対応できる組織をめざしています。

### ■相談業務のポイント

●電話やメールは、その都度チェックして、相談者のデータベースを作っておき、次回からの相談に活用する。

●団体としての電話相談の対応マニュアルを作成。たとえば「つらい」という訴えには、まず共感して、「コミュニケーション」を深めるように心がけるなど。

●電話相談は、担当者が不在のときは転送して、相談時間内は常時対応できるようにする。（NTTのボイスワープを利用。）

●携帯メールは逐一答えているとチャットのように見えることがあるので、緊急以外は「日一通し」か返信しない。

# EVENT CALENDAR

■第30回全国パーキンソン病友の会大会  
記念講演「医療と気持ち—患者中心の医療—」  
シンポジウム「根治医療確立に向けて、今できること」  
6月22日(木) 13:30~16:00  
会場：ティアラこうとう(東京都江東区公会堂)  
お問い合わせ先：TEL 042-348-3763  
FAX 042-348-3764  
E-mail：jpda@jpdea-net.org

■のぞみ会20周年記念シンポジウム  
「変形性股関節症の進行を防ぐためには—  
一保存的治療から手術的治療まで—」  
6月25日(日) 13:00~16:20  
(会員以外の方は参加費500円が必要になります)  
会場：津田ホール(東京都渋谷区千駄ヶ谷)  
お問い合わせ先：TEL 03-5272-0745  
FAX 03-5272-2848

■フォーラム「亡くした子どもの遺志を継ぐ」  
第2回 7月22日(土) 14:00~17:00  
会場：東京慈恵会医科大学講堂(東京都港区西新橋)  
NPO難病のこども支援全国ネットワーク  
お問い合わせ先：TEL 03-5840-5972  
FAX 03-5840-5974  
E-mail：ganbare@nanbyonet.or.jp

■第29回てんかん基礎講座  
【東京】7月24日(月)・25日(火)  
会場：かめありリリオホール  
【大阪】8月4日(金)・5日(土)  
会場：シティプラザ大阪  
(社)日本てんかん協会  
お問い合わせ先：TEL 03-3202-5661  
E-mail：nami@scan-net.ne.jp



マネコとキネコの  
情報ひろば

http://www.tohoku-hcn.org/



## VHO東北ヘルスケアネットHP

同じ疾病、同じ障害、同じ悩みを共有する東北のセルフヘルプグループのリーダー(必ずしも会の代表でなく、リーダー的役割を担う)3名が「ヘルスケア関連団体ネットワーク」に参加した感動をもとに、2004年9月に東北地域の患者団体や障害者団体にリーダーに

呼びかけて交流会を開催したが、VHO東北ヘルスケアネットの始まりです。2回の交流会を



経て、互いに自分のペースでかわりながら、互いの疾病や障害は異なるものの、東北地域の特性、共通性を確認しあい、2005年7月に、「VHO東北ヘルスケアネット」という名称となり、交流会から学習会へと発展しました。穏やかなネットワークを構築して、互いのグループへの貢献とともに、東北のそれぞれの地域社会を疾病や障害をもつている人を標準とした住みよいところに改善するために活動を行っていかうとしています。一人ひとりが自分の問題だけでなく、多くの仲間たちの問題について地域社会で発言し活動することが、ひとりの役割を何倍にも効果的に果たせるのではないかという思いから、苦勞の末、ホームページを立ち上げました。



## メッセージ

まねぎねこで取材させていただく方々は、明るく前向きで、当事者であっても困難に負けず、それを自分の特徴として、日々の活動に取り組みむ方ばかりです。お話をうかがうと、一人の力だけではなく、いろいろな人と関わり、ネットワークを広げ、よりよい知恵を出しながら前進していることがよくわかります。小さなきっかけで始まったことが、やがて大きな活動へと育つなど、ポジティブな気持ちがよりよい方向へと進んでいるのだと思います。

まねぎねこでは、そんなホットな活動の様子や、それぞれの団体の取り組みや工夫点など、次の活動へと繋げていただける情報を、より多くの皆様に今以上にお届けしていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。



### マネコ & キネコ

ヘルスケア関連団体ネットワークの Mascot は、招き猫。人を招き、ネットワークを広げようという意味が込められています。「まねぎねこ」の Mascot のマネコ & キネコは、みなさまの「声」が届くのを心待ちにしています。よろしく、お願いいたします。

### 読者の声、募集中

「まねぎねこ」は、読者のみなさまからの情報提供を歓迎します。同封のアンケート用紙または、自由な形式でご意見や情報をお送りください。

### まねぎねこ 2006年初夏号

発行：ファイザー株式会社  
コミュニティ・リレーション部  
「まねぎねこ」はヘルスケア関連団体のネットワークづくりを支援するニュースレターです。

内容に関するお問い合わせは、ファイザー株式会社 コミュニティ・リレーション部までお願いします。  
〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7  
新宿文化クイーンビル  
電話 03(5330)6720  
ファックス 03(5330)9004  
メールアドレス manekineko.info@pfizer.com

情報提供、協力

